

水質環境基準抜本見直しへ 環境省



環境省は、水質環境基準生活環境項目の抜本的な見直しに乗り出す方針を固めました。来年度から、水環境保全施策の枠組みを再構築するための検討を始めます。日本の水質環境基準は、国際的な基準との不整合などが指摘され、水質汚濁の代表的な指針であるCOD(化学的酸素要求量)についてもTOC(全有機炭素量)への変更を求める意見が根強いのが現状です。このため、同省は新旧項目の実態把握や解析などを踏まえ、08年度には検討を終え、項目を見直す見通しです。その半面、現行基準が運用されて35年が経過しており、項目によっては水質測定が義務付けられている事業者からの反発も予測されます。

当社ではCOD並びにTOCの分析も行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

資料:2006年2月15日付 環境新聞 HP

水質分析箇所 長谷川知草